

令和3年度第1回成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会  
会議結果概要

1 開催日時

令和3年11月9日（火）10:00～11:00

2 開催場所

成田市役所 6階 中会議室

3 出席者

（委員）

山田部会長、中村(智)委員、石田委員、高野委員、前田委員、  
石橋委員、中村(亜)委員、岸本委員、古川委員

（事務局）

健康こども部：高橋部長

子育て支援課：篠塚課長、高仲課長補佐、椎名係長、青柳主査、  
在田副主査

保育課：宮崎課長、柴田主幹、北見係長、久保木係長、鴻池係長

健康増進課：門井課長、谷下田主幹

社会福祉課：伊藤課長

4 議題

（1）子ども・子育て支援に関する現状と取組について

5 配布資料

・資料1 子ども・子育て支援に関する現状と取組について

6 議事

○議題（1）子ども・子育て支援に関する現状と取組について

（「資料1 子ども・子育て支援に関する現状と取組について」に基づき事務局から説明。主な質疑応答は、以下のとおり。）

委員：新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市内の出生数はどのように変化しているか。

事務局：成田市の近年の出生数は緩やかな減少傾向にある。昨年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより、成田市に

限らず全国的に例年よりも減少の幅が大きい傾向がみられる。成田市の昨年度の出生数としては、877名であった。

委員：近年、保育園に関する心が痛むような事故や事件の例が多くみられる。成田市としてはどのような対策をとっているか。現状を知りたい。

事務局：保育園としては、児童の安全を第一に考えている。まず、災害等に関しては、避難訓練の実施や、マニュアルに基づいて児童が安全に過ごすことができる対応をしている。また、市内において事件が発生した際には、園外での保育は控え、施錠の徹底等を行っている。散歩中の事故への対策としては、散歩経路の見直しを実施し、危険性が高い場所の修繕等を行うことで、安心して散歩ができる環境を整えている。

委員：保育士やスタッフを対象とした勉強会や意見交換会は実施しているか。マニュアルを配布し、注意喚起をするのみか。

事務局：随時、各園において園内研修等を実施している。

委員：待機児童が発生している理由として「入所希望先の偏りがある」ということが挙がっていたが、具体的にどのような内容で偏りが生じているのか。

事務局：保護者の通勤に伴い、送迎の利便性を重視し、入所希望先を選択する傾向にある。現在、遠山地区の待機児童が多く発生しているが、その理由としては、遠山地区は他の地区の保育園へ通いにくいという実情があり、遠山地区の園への入園を希望するものの入所できず待機児童となる事例が多い。

委員：具体的な話となるが、第1子がすでに保育園に在籍している世帯で第2子が生まれた場合に、保護者としては2人とも同じ保育園に通わせたいと考えるが、入所を決定する点数によって、第2子がなかなか入園できず、育休を延長されている方もいる。そのような世帯があることが待機児童の発生の一因であると感じる。機械的な点数制でなく、各家庭の事情を考慮した入所の制度を確立できないものか。

事務局：兄弟を同じ保育園に通わせたいという保護者の希望はよく理解できる。しかし、保育園の入所に関しては、保育の必要性を点数化し、点数の高い方から順番に入所していただく形となっている。その順番を崩すと、点数の高い方からすると不公平が生じてしまう。それぞれの保護者に事情があることは理解しているが、現状としては、点数の高い方から入所していただく形となる。

委員：児童ホームでは有事に備えて一定数の防災頭巾が用意されているが、学校のように一人ひとつの防災頭巾が用意されているわけではない。そのことについて、児童ホームの職員から、父母会費を使用しすべての児童分の防災頭巾をそろえてほしいという要望があった。その点については問題ないが、市が所管している児童ホームの防災頭巾の数に規定などはあるのか。

事務局：防災頭巾の数についての規定は設けていない。しかし、災害時などに安全に避難ができるよう、すべての児童の分を用意していることが望ましいと考えている。

委員：では、防災頭巾の個数などは各児童ホームの裁量によるということか。

事務局：そのとおりである。

委員：企業主導型の保育施設で、昨年度末に多くの児童が他の施設へ転園した。少子化や新型コロナウイルスの影響も考えられるが、以前と比較し、認可保育所へ入所しやすい傾向が見受けられるか。

事務局：共働き家庭の増加などにより、保育需要自体は伸びていると思われる。また、保育園も新設されている。しかし、昨年度と比較し、今年度4月時点の入所申込者が大きく増加しているということはない。また、育児休暇の後に保育園へ預けて働く母親が増えてきている関係で、0歳児や1歳児については、年度の途中からの入所が難しい状況となっている。